

参 考 資 料

発問について・・・・・・・・・・ P 22

参加型の学習について・・・・・・・・ P 24

安全管理マニュアル作成例・・・・ P 26

発問について

クラスの状況、場面に応じた発問の留意点

段階	No	留意点	解説
クラスのコミュニケーションが十分でない初期の段階	1	質問は、特定の生徒に偏らないようにする。	質問されない生徒は疎外感を感じてしまう。
	2	目立たない生徒に意識的に声をかけたり、質問をしたりする。	絶えず、全ての生徒に気を配っているという教師側の姿勢を伝える。
	3	一人で考えさせた後、二人組みで話し合いをさせ、その後クラスの意見を聞くといった段階を経る。	自分の意見をまとめ、少数で話し合い、全体へといった手順をとることで、積極性を導き出す手だてとして有効。
	4	質問後、「待つ」時間をとる。	考えている最中に、次の生徒に発問が移った場合、答えられなかった自らへの失望感と黙っていれればしのげるという二つのネガティブな要素となる可能性がある。
	5	生徒の意見に対して、その場で批評や否定をしない。	不完全な回答でも、受け入れてもらえた安心感は次の機会への勇気となるが、否定されたり、嘲笑されたりすると答える意欲がなくなる。
	6	質問の意図が伝わらない場合、噛み砕いたり、例をあげたり、言い換えたりして質問をし直す。	理解力、経験値の違い、大人の感覚との違いなどで、何を聞かれているかわからない場合や、わからないことが明らかになる恥ずかしさなどの感情に対して手だてをすることで、答えられたという実績を作ることが必要。
考えを深める段階	7	フォローアップの質問(どうして賛成なの?)をして考えを更に引き出すことを意識する。	意見が十分に伝えられていない場合、授業者からの更なる問いかけで考えを深めることも重要な技術。
	8	学習内容や場面に応じた質問の種類を用意する。	発問には意図があり、発問者自身が自覚することが大切。発問の意図が伝わらなければ、答える意欲が低下する。(リラックスさせる、復習をさせる、応用的能力をくすぐる、複数の回答が予想されるといった意図)
	9	複数の意見をまとめるような要約をさせる。	他人の意見を積極的に聞く姿勢を持たせるためには、「クラスの意見をまとめるとどうなりますか?」といった発問が有効。
参加意識を高める段階	10	クラスの意見を調査する。	「今の意見に賛成の人は?」というように、所々で全体に問いかけることで参加意識が高まる。
	11	生徒自身に次の発言者を選ばせてみる。	「さん、次に答える人を選んでください。」など、積極的な姿勢が見られる段階では生徒による主体的な発言を促す。
	12	自分たちの意見を擁護するような場を持たせる。	自分たちの意見を反対の意見から擁護する意見を導き出す。
	13	自分の考えを発言させるようにする。	「どうしてそのようになったのか説明してください。」などフォローアップの質問で考えを導き出す支援をする。
	14	生徒自身が質問をつくるような仕組み取り入れる。	自分たち自らの質問を考えさせる。
	15	生徒が答えるきっかけを作る。	「この問題の答えはひとつではありません。もっといろいろ聞かせてください。」などの発問をする。

発問チェックシート

1, 2は「知識・理解」 3～6は「思考・判断」となる。

知識・理解を求める問いかけだけで終わっていませんか？

- 1 **知識** …… 今までの情報を思い出し、照合する。
「(教科書やノートから)先週話した内容のポイントは何でしたか？」

- 2 **理解** …… 事実と考え方を選択して編成する。
「自分の言葉で について説明してみてください。」
「 についての大切な考え方は何ですか？」

- 3 **応用** …… 事実、法則、原則を利用する。
「(熱中症の応急手当の)例として、(薄めの食塩水を飲ませること)があげられますが、それはなぜですか？」
「(心)と(脳の働き)にはどのような関係がありますか？」
「(適切な休養及び睡眠によって疲労を蓄積させないようにすること)はなぜ重要なのでしょうか？」

- 4 **分析** …… 全体と部分を分けて考える。
「(交通事故の発生について)の部分or特徴は何ですか？」
「(感染症法による分類)に従って、(次の感染症)を分類してみよう。」
「(好天時の交通事故)と(雨天時の交通事故)の比較or対比をしてみよう。」

- 5 **組立** …… アイデアを結合して新しいものを作る。
「(実験の結果)から何が推察できますか？」
「(各種の健康指標)と(年代別の死亡率)を統合するとどうなりますか？」
「(感染症の発生原因)について、どのような結論が推察できますか？」

- 6 **評価** …… 意見、判断、結論を導き出す。
「(WHOの健康の定義)に合意しますか？」
「(喫煙の低年齢化)についてどう思いますか？」
「(このケースでは)何が一番大切な(観点、方法、手段など)ですか？」
「(あなたの健康行動)に優先順位を付けてください。」
「あなたなら、(環境の保護)についてどのような決断を下しますか？」
「どのような方法で決断を下しますか？」

参加型の学習について

<ブレインストーミング>

集団(小グループ)によるアイデア発想法のひとつ。参加メンバー各自が自由にアイデアを出し合い、互いの発想の異質さを利用して、連想を行うことによってさらに多数のアイデアを生み出そうという集団思考法・発想法のこと。

【4つの原則】

批判をしない
奔放なアイデアを歓迎する
質より量を重視する
他のアイデアを修正、改善、発展、結合する

【進め方の例】

付箋(アイデアをひとつずつ書くためのもの)を一人10枚程度配る。

スタートの合図で各自付箋にアイデアを書きながら、それを声に出して読み上げる。(4つの約束を守る)発表は思いついた人から行う。司会は設けない。

書かれた付箋を机上へ置いていく。

「課題解決法のアイデアを出す」「課題を確認する」「イメージを整理する」などの場面で活用できる。発言がスムーズにできない場合には、付箋等のカードに書き込んで出し合う方法も考えられる。

<ケーススタディ>

日常で起こりそうな架空の物語で場面を設定し、学習者がその主人公の立場に立ち、登場人物の気持ちを考え、または行動の結果を予想したり、主人公がどのように対処(態度や行動)すべきかについて考えたり話し合う学習のことである。

学習者は、架空の人物について話し合うため、自分の個人的な経験を暴露したり気恥ずかしい思いをしたりする心配が少ないことから、学習者の率直な気持ちや考えを引き出すことが容易になる。

【留意点】

学習者に自由な発想と十分な時間を保障し、批判的な思考や創造的な思考を促す問いかけをすること。

授業の「展開」では、「もしあなただったら」という問いかけは避け、物語の登場人物について考えさせること。

教師にとって都合のよい特定の考えや価値観を強引に押しつけないこと。

業の終わりにまとめとして、ありがちな結論を性急に位置づけないこと。

学習者にすばらしいアイデアや考え、または正しい回答を求めることよりも、学習者自身が自分なりに思考し、他の人の考えを知ってさらに思考を深めるといった過程を重視すること。

<ロールプレイング>

役割演技法とも呼ばれ、個人の心理療法や対人関係の改善、リーダーシップの訓練などに幅広く用いられる。防犯教育で活用する場合は、実際に起きた事例や、起きそうな事例（車に乗るように誘われるなど）をもとに、役を演じることによって、その役割に必要な能力や技術を習得したり、それについて理解することができるようになる。ただし、ロールプレイングを行うことにより何を学習するのかを明確にし、指導前にはロールプレイングの目的や行い方を生徒に説明したうえで、指導中、指導後は、発問などを工夫して、学習内容を習得したり思考したりできるようにすることが大切である。

【題材の例】

「不審者から誘われた時の断り方」や「学校内で不審者らしき人を発見したら」など

【留意点】

不審者の役など、好ましくない役は、原則として生徒にはさせない。

誘い方の印象や恐怖心が強く残ってしまわないように、誘い役の教師等はあまり巧みな演技をしない。

発達段階に応じて指導内容を考慮する。

演技自体が目的化され、演技指導に陥らない。

演技の評価については、児童生徒の演技の問題点ばかりを指摘しない。

傍観者である生徒が単なる傍観者にならないように、フィードバックを必ず行う。

<ディスカッション>

あるテーマについて、自由に意見を述べる活動で、様々な観点から考えることができ、思考力の向上が図れる。

【題材の例】

「地域社会の安全への貢献について」など

【留意点】

意見を述べない、述べるできない生徒が出る可能性があるため、教師は巡視をしながら、支援をしていく。

意見の言いやすい雰囲気作りや、事前に課題について提示しておくなど、生徒それぞれが、自分の意見を述べやすい準備をする。



安全管理マニュアル作成例

1 平常時の対応

児童・生徒の安全確保のための平常時の対応確認表（例示）

～不審者の侵入等による事故防止のための対応～

校内安全管理体制は確立しているか？

緊急時（事故発生時）の指揮系統の明確化
全教職員の役割分担及び行動内容の明確化
定期的な訓練等による確認

指揮・系統図
役割分担表
訓練計画策定

登下校時における安全確保のチェックはできているか

通学路における児童・生徒の実態把握
PTAや地域との連携による協力体制
学区内の危険個所の把握と教職員への周知徹底
学区内の緊急避難場所の教職員への周知徹底

通学路図
危険個所発見
危険個所マップ
子ども110番の家訪問

始業前や放課後における安全確保のチェックはできているか

学校内外の巡回など、教職員の具体的な役割分担

ローテーション表

来校者確認のシステムはできているか

来校者のための案内板の設置
来校者名簿や来校証、名札等の備え付け
来校者への声かけ

案内板・掲示板
識別物品
声かけの実施

学校の施設面における安全確保のチェックはできているか

施設・設備などの定期的な点検と補修
警備会社との連絡体制の確認（契約している場合）

点検マップ
会議開催

児童・生徒の安全に配慮した学校開放を行っているか

開放部分と非開放部分との区別の利用者への周知徹底
学校開放時の安全確保についての保護者やPTA等との連携

コーン・貼紙
校内巡回協力

不審者等の情報に係る関係機関等との連携は図られているか

警察等との日常的な連携
近隣の学校との日常的な連携
教育委員会との連携

講演・研修協力
広報誌の配付
報告・助言

児童・生徒の安全管理に係る教職員の情報の共有化と共通理解はできているか

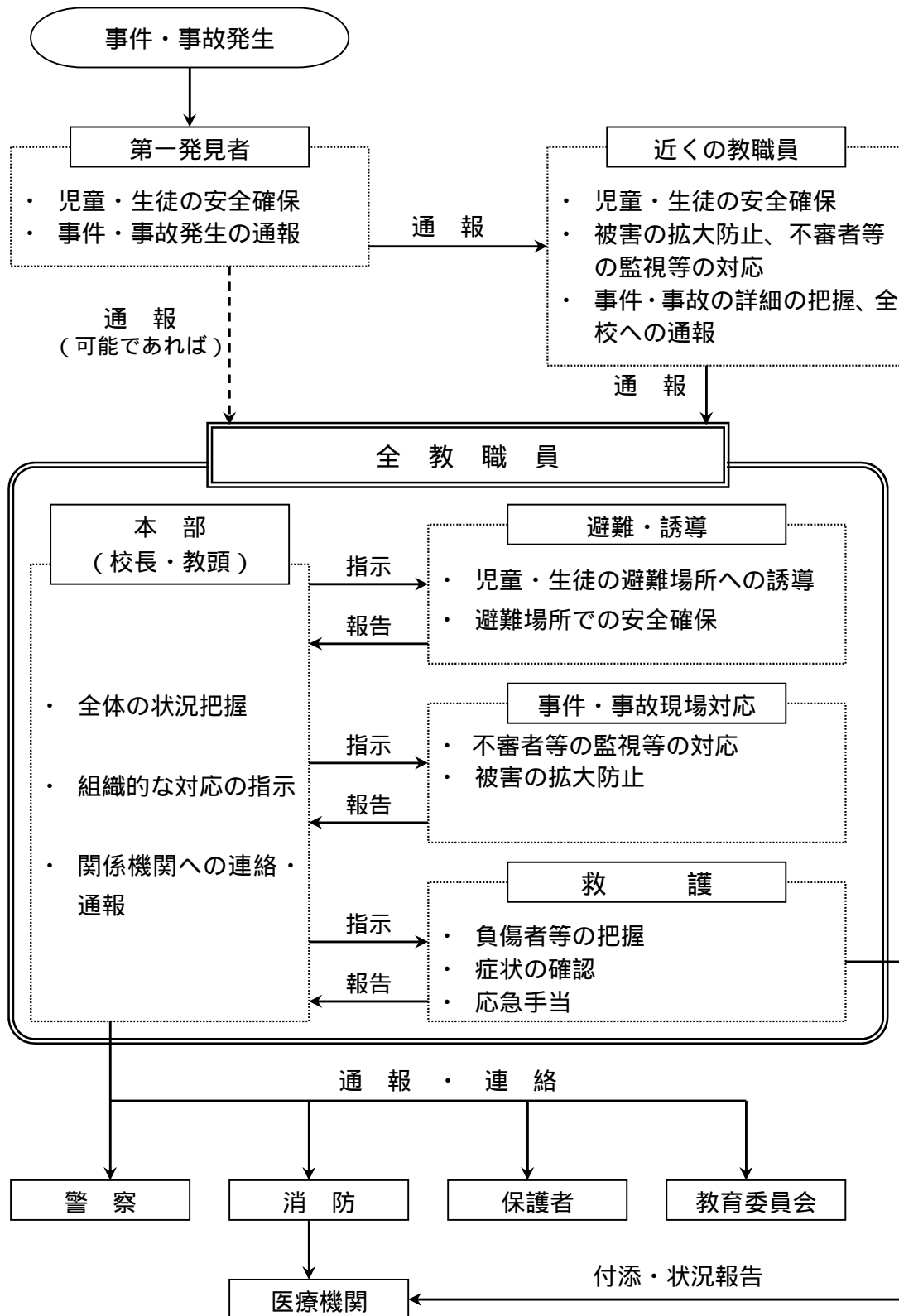
安全確保の視点の共有化・明確化
保護者や教育委員会への情報発信

職員会議での定期的議題
広報誌の相互提供

2 緊急時の対応

児童・生徒の安全確保のための緊急時の対応の流れ（例示）

～ 事故発生直後から緊急事態収束までの対応～



3 緊急時の連絡・通報

緊急時の通報（例）

各学校では、発達段階に応じた配慮や工夫をしながら下の例を参考に、それぞれの学校に応じたマニュアルを作成し、電話の近くなどの目につくところに掲示して、いざというときに迅速に対応できるように準備してください。

緊急放送例

（緊急事態を特定の文例で表現する例）

- ・ 校長先生 番に急ぎのお電話です。

（状況をそのまま伝える例）

- ・ 緊急放送です。ただいま 棟 階に不審者が侵入しました。
- ・ 児童（生徒）は先生の指示に従ってください。

110番通報例

- ・ こちらは 学校です。
- ・ 刃物を持った不審者が侵入し・・・（状況を簡潔に説明）
- ・ 緊急出動をお願いします。
- ・ 所在地は、 市 町 番です。
- ・ 電話番号は、 - です。

119番通報例

- ・ こちらは 学校です。
- ・ 子どもが刃物で切りつけられ・・・（負傷の状況を簡潔に説明）
- ・ 至急、救急車の出動をお願いします。
- ・ 所在地は、 市 町 番です。
- ・ 電話番号は、 - です。

緊急時連絡先（例）

緊急機関

警察 110 番（地区警察署 - 0110）

消防 119 番（地区消防署 - 0119）

医療機関等

学校医	内科	医院	-
	眼科	眼科	-
	歯科	歯科	-
	耳鼻科	医院	-

学校薬剤師 薬局 -

近隣病院	総合病院	-
	外科医院	-
	病院	-

管理職

校長 携帯 - -

教頭 携帯 - -

教育関係

教育委員会 課 -

教育事務所 -

その他

P T A 関係 -

警備会社 -

タクシー -

⋮